

SMT設備が好調推移

中国を中心に売り上げ伸長

製造装置商社・マス商事は、中国を中心に電子機器製造業が活発に動いている中で、実装機などSMT設備の売り上げを順調に伸ばしている。事業拡大の一環で、本社ショールームを全面リニューアルし、今秋オープンする。

本社ショールームを全面リニューアル



高城 副社長

M/Tラインの設備に加えて、産業用ロボットも扱うことで製造現場の幅広い要求に応える体制の強みを発揮している。

国内のほか、海外展開する日系企業向けのビジネスに対応して中国（蘇州、深圳）、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、タイ、ベトナム、メキシコ、インドに営業拠点を構えている。

高城久副社長は、最近の市況感について「国内はさまざまな補助金制度の効果もあり、電子機器製造業が活発に動いている。海外は中国の電子機器製造が昨春秋ごろから活況を取り戻して以降、

ショールームを常設し、商談やプライベートセミナーにフル活用してきた。同ショールームを最先端設備をそろえて、全面リニューアルを計画し10月にはオープンする。

高城副社長は「顧客の要望に迅速にこたえられるだけではなく、新技術や新製品を提案して顧客の生産活動の価値を高める商社を目指している。コロナ禍によってリモート商談が増えているが、製品の性格上、限界があり、やはり実機での商談が不可欠。これまで『パリュール』をコンセプトにショールームを展開してきたが、さらに価値を高めて顧客に最先端の上位機種を提案するショールームとして運営する」と述べる。

同社は新横浜の本社に印刷機、実装機、検査装置、リフロー装置までSMTラインの実機展示と、産業用ロボットのデモができるショールームを常設し、商談やプライベートセミナーにフル活用してきた。同ショールームを最先端設備をそろえて、全面リニューアルを計画し10月にはオープンする。

り組んでいる。海外の拠点では既に女性の役職者が活躍しているが、国内でも女性役職者の起用を始める。海外については、各拠点の営業、サービス要員を増強している。

高城副社長は「20年10月からの第4期も残すところ2カ月になった。仕入れ先メーカーが半導体や電子部品などの不足で、製品供給が厳しくなりつつあるが、当社は顧客への納期対応に全力を挙げ、前年を上回る実績を確保したい」と追い込んでいる。

同社は、ヤマハ発動機（ロボティクス事業部）代理店として、実装機を中心にSMTに関する製造装置を幅広く扱う。はんだ付け装置（リフロー装置）などヤマハ以外の取り扱い製品も多く、最近はい製前後工程の設備など商材を拡大している。3、4年前から産業ロボットの販売も始めている。実装機のほか、はんだ印刷機、基板検査機（SPI、AOI）、さらに自動倉庫、ディスプレイ、はんだ付け装置などSMTラインの設備に加えて、産業用ロボットも増加している。アジアもタイ、マレーシア、ベトナムは受注も活発で、当社の売り上げも国内外ともに計画通りに推移している」と話す。

中国はマストレーディング（深圳）をヘッドに蘇州分公司を構えている。車載、通信、民生機器、EMSなど幅広い業種でSMT装置の需要が拡大している。生産自動化要求の高まりも需要を後押しする。

国内では営業強化や社員の職場環境向上などの目的で、西日本支店（大阪）をJR新大阪駅の至近に移転した。女性の活用にも取